

研究開発成果 実装支援プログラム
平成24年度 報告書

実装活動の名称 「学校等における犯罪の加害・被害防止
のための対人関係能力育成プログラム実装」

採択年度	平成24年度
実装機関名	福岡教育大学
実装責任者	小泉 令三

1. 概要

H24 年度の実績を、小中学校での実装、児童自立支援施設での実装、教育効果の測定に分けて説明する。

●小中学校での実装

小中学校での対人関係能力育成プログラム（SEL-8S）の実装に向けて、a)研究開発段階からの実践校 3 校での実践継続、b)来年度（H25 年度）からの導入をめざす新たな実践校を 3 校（中学校ブロック 1 を含む）得ること、c)実践交流会・研修会の開催、d)SEL-8S 学習プログラムの改善を目指した。

その結果、a)については、H24 年度の実践継続が達成された。また、b)については、小学校 2 校と中学校 4 校、および小中一貫校 1 ブロック（小 1，中 1）から実践協力校としての申し込みを受けた。c)については、11 月に 2 回研修会を開催し、県外からの参加者を含む約 35 名の参加があった。d)については、SEL-8S 学習プログラムで用いるカラー版ポスターの作製および評価用資料（教師による評定用紙と集計ソフト、実践に関わる集計用紙など）の充実を行い、ホームページに掲載した。

●児童自立支援施設での実装

児童自立支援施設等における再犯防止学習プログラム（SEL-8D）の普及・実装に向けて、e) 児童自立支援施設での実践継続、f) 児童自立支援施設内併設の小中学校での実践継続、g) 新しい実践施設の開発・支援、h) SEL-8D 学習プログラムの改善を目指した。

その結果、e)、f) については、継続して実践することにより、施設内での SEL-8D の定着を促進することができた。またその過程において、新規ユニットの開発・実践、既存ユニットの見直し・改善も行うことができ h) の目的も達成された。また g) については、主に SEL-8D 収録 CD を通じた新たな実践先の獲得を目指した。機関・組織単位での実践申し込みはなかったものの、全国の 37 の教育・福祉機関から SEL-8D についての問い合わせがあり、プログラムが収録された CD を無償で提供した。

●教育効果の測定

H25 年度の実装に向けて、これまで研究開発段階で指摘された問題点についてデータの解析ならびに理論的な検討を行い、問題点の整理をおこなった。

その結果、EI の質問紙の結果と客観的な課題によるテスト（能力テスト）との相関が低いことについて、無関係だという結論を下す前に、EI の客観的な測定法について、さらに改善を行うことが必要であるとの結論に達した。

2. 実装活動の具体的内容

●小中学校での実装

小中学校での対人関係能力育成プログラム（SEL-8S）の実装に向けて、a)研究開発段階からの実践校 3 校での実践継続、b)来年度（H25 年度）からの導入をめざす新たな実践校を 3 校（中学校ブロック 1 を含む）得ること、c)実践交流会・研修会の開催、d)SEL-8S 学習プログラムの改善を目指した。

a) 研究開発段階の実践校の実践継続

実践校3校とも、研究開発段階に立案された年度計画に従って、SEL-8Sが継続的に実践されている。また、H24年5～6月と12月に質問紙調査を行い、教育評価測定グループによるデータ処理を経て、結果を実践校にフィードバックした。これはH24年度の実施効果の検討とともに、H25年度の実施改善に向けた調査となっている。

b) 新しい実践校の開発

新たな実践校の獲得のために、小中学の校内研修会に講師として招かれる機会や、下に述べる研修会を利用して広報活動を行った。その結果、新たに福岡県内の小学校2校と中学校4校、および小中一貫校1ブロック（小1，中1）から実践協力校としての申し込みを受けている。

c) 実践交流会・研修会の開催

SEL-8Sに関する研修会をH24年11月15日と28日の2回開催した。この2回はほぼ同一の内容で、各学校の校内行事等を考慮して、できるだけ多くの参加者が得られるように複数回にした。研修会には福岡県をはじめ、長崎県、新潟県の小中学校の教職員など、全37名の参加があった。この場で、研究開発段階からの実践校が、実践状況やその成果に加えて校内研修会のもち方等の具体的な説明を行い、これから実践校となる学校や、実践を検討している関係者を交えて、質疑応答及び意見交換を行った。

d) SEL-8S学習プログラムの改善

実装に向けた取組として、研究開発段階に開設したホームページにおいて、SEL-8Sの実践に関する情報を随時更新した。具体的には、授業実践に必要なプリントやポスター、実践校の効果検討に必要なアンケート用紙や授業実践記録などの実践にかかわる集計用紙などの充実を図った。ホームページにおける公開情報を充実させることにより、授業実践や効果検討での実践校の負担を軽減することができる。そのため、現在の実践校におけるSEL-8Sの継続実践の支援、および新たな実践校の獲得に大きく貢献すると考えられる。

●児童自立支援施設での実装

児童福祉機関でのSEL-8D実装に向けて、e)研究開発段階の施設の実践継続、f)施設に併設する学校での実践、g)新しい実践施設の開発・支援、h)SEL-8D学習プログラムの改善（教材等の追加）を行った。

e) 研究開発段階の施設の実践継続

児童自立支援施設「福岡学園」において実践を継続した。今年度は、SEL-8Dに関心の高い学園職員が受け持つ女子寮（女子児童）において行った。

f) 施設に併設する学校での実践

「福岡学園」内に併設された小・中学校分校でも実践が開始された。H24年6月とH25年3月に質問紙調査を行い、教育評価測定グループの処理を経て、結果を小・中学校分校教員にフィードバックした。この教育評価測定では、H24年度の実践効果検証とともに、フィードバックを通じた意見交換によりH25年度の改善課題を明らかにすることができた。

この過程で、同学園の専門職員や分校の教職員が主体的に関与したことで、これまで以上に我々の取り組みが認知され、学園内におけるSEL-8Dの定着促進に結びついた。

g) 新しい実践施設の開発・支援

下記表1・表2に示したとおり、教育機関（教育委員会、小中学校など）や児童福祉機関（児童相談所や児童自立支援施設）、少年院など合計37の機関から、SEL-8Dを使ってみたいとの要望があり、SEL-8D収録CDを無償で提供した。送付先は九州内だけに留まらず、青森や秋田、岩手、宮城、群馬、栃木、東京、愛知、大阪、三重、岡山など全国に渡っており、SEL-8Dが全国的に周知されつつあることが伺える。ある機関では、従来から行われている心理療法や教育手段に加え、SEL-8Dのユニットをレパトリーとして追加したいとのことであった。SEL-8Dは誰にでも利用しやすいように、プログラムのモジュール化が取り入れられている。したがって、SEL-8Dの全ユニットを実施する必要は必ずしもなく、任意のユニットのみでも実施可能である。SEL-8Dのこうした特徴も普及に寄与しているものと考えられる。

表1 機関別CD請求件数		表2 県別CD請求件数	
機関名	請求件数	県名	請求件数
教育委員会	4	青森	1
児童相談所	2	秋田	1
少年院	1	岩手	4
児童自立支援施設内分校	3	宮城	2
高校(定時制含む)	2	新潟	1
中学校	8	群馬	4
小学校	5	栃木	1
大学・大学院	9	千葉	1
特別支援学校	1	東京	4
スクールカウンセラー	2	岐阜	1
合計	37	愛知	3
		三重	1
		大阪	1
		岡山	2
		徳島	1
		福岡	1
		佐賀	1
		長崎	1
		大分	4
		宮崎	1
		沖縄	1
		合計	37

h) SEL-8D学習プログラムの改善（教材等の追加）

e)研究開発段階の施設の実践継続、並びに f) 施設に併設する学校での実践の過程において、使いやすさの観点から既存ユニットの見直し・改善や教材の追加などを行い、また学園側からの要望に応え、新規ユニット（例、万引き防止）の開発を行った。

●教育効果の測定

全体計画の項目として特設してはなかったが、まず上記の小中学校及び児童自立支援施設での実装において、測定データの処理を担当した。

また H25 年度の実装に向けて、これまで研究開発段階で指摘された問題点についてデータの解析ならびに理論的な検討を行い、問題点の整理をおこなった。その結果、情動的知性（EI）の質問紙の結果と客観的な課題によるテスト（能力テスト）との相関が低いことについて、無関係だという結論を下す前に、EI の客観的な測定法について、さらに改善を行うことが必要であるとの結論に達した。

3. 理解普及のための活動とその成果

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2012年 11月1日	非行児童等集団指導プログラム研修会	長崎県立開成学園 2階大会議室	長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター主催による、非行などの問題を抱えた子ども達への集団プログラムの研修会。講師として参加し、SEL-8Dの解説、実演、実習を行った。	長崎県の児童相談所、児童自立支援施設等の職員	SEL-8DのPRと普及促進
2012年 11月15日、28日	児童生徒の社会的能力育成に関するコーディネーター的教員研修会	福岡教育大学	各学校でSEL-8S学習プログラムの導入・推進の中心となる教員（コーディネーター的教員）が、取組の手順や計画立案等に関する具体的方法を習得することを目的とした研修会。 2日間で37名の参加者があった。（同一内容を2回実施）	小中学校を中心とした教育機関の教職員	実践協力校の獲得
2012年 12月19日	福岡市中央区女性地域アクティブメイト報告会 http://www.city.fukuoka.lg.jp/chuoku/t-shinkosien/kuyakusho-sisetsu/ch-tikisinkou/004.html	福岡市中央区役所 3階大会議室	福岡市中央区役所の女性の社会参画事業である「中央区女性地域アクティブメイト」。区内の一般女性が研究テーマを設定、研究活動を行い区長に報告する。この報告会において、子どもの安全の観点からコメントし、SEL-8Dについても説明	福岡市中央区長、同区推進部長、地域保健福祉課長、福祉・介護保険課長、地域	福岡市民・福岡市役所へ向けたSEL-8DプログラムのPR

実装支援プログラム 年度報告書 様式

			した。	振興・支援課長, NPO法人安全安心まちづくり研究会理事長等	
--	--	--	-----	-----------------------------------	--

(5)WEBサイトによる情報公開

- ・『学校などにおける犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム実装』, URL: <http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/index.html>